

## 6 よりよい建物サインづくりを目指して

### 6-1 建物サインづくりにおけるワークショップの活用

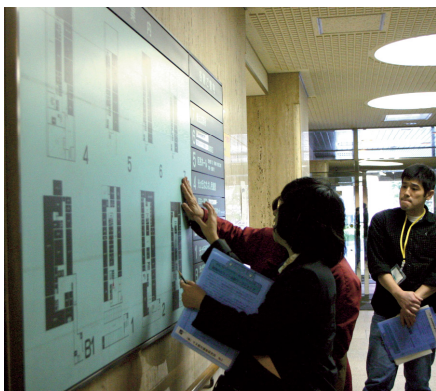
○本マニュアルの作成にあたって実施した既存建物における建物サインづくりワークショップを例に、建物サインづくりの各目的に応じたワークショップの活用方法を紹介します。

#### (1) 建物サインの現状や課題を把握・整理する

○建物利用者と建物管理者等が参加して現場点検や建物サインマップづくりを行うことで、建物利用者の具体的なニーズを踏まえた建物サインの課題を整理できます。

##### ■建物内のサイン点検

課題となる建物サインを写真に撮って気付いたことをメモしながら、建物内を点検しました。



##### ■建物サイン点検マップづくり

点検時に撮った写真やメモを建物配置図に貼り、現状と課題を整理した建物サイン点検マップをつくりました。



##### ■グループ発表

グループごとに点検成果を発表し、さまざまな建物利用者のニーズを参加者相互で確認しました。



#### (2) より具体的な建物サインの整備・活用方策を検討する

○チェックリストを活用するなどして、検討対象とする建物サインを明確に設定することで、より具体的な整備内容を提案することができます。

##### ■視覚情報サインの検討

聴覚障害者の方々や車いす使用者の方々に必要な「視覚情報サイン」に焦点を絞って改善策を検討しました。



##### ■触覚情報サインの検討

視覚障害者の方々に必要な「触覚情報サイン」に焦点を絞って改善策を検討しました。



##### ■サインシステム全般の検討

高齢者や子育て層、外国人の方々と施設全体の建物サインの配置方法の改善策を検討しました。

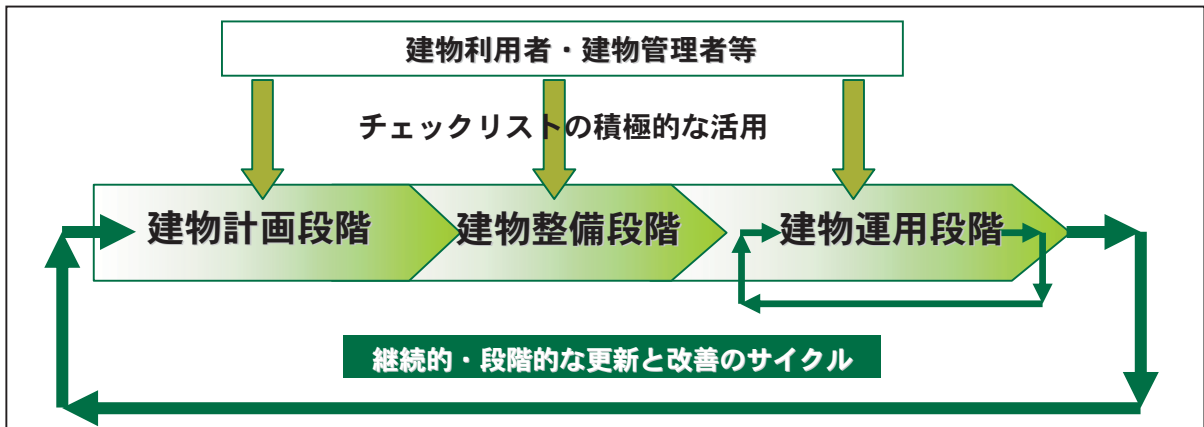


## 6-2 建物サインの更新と改善

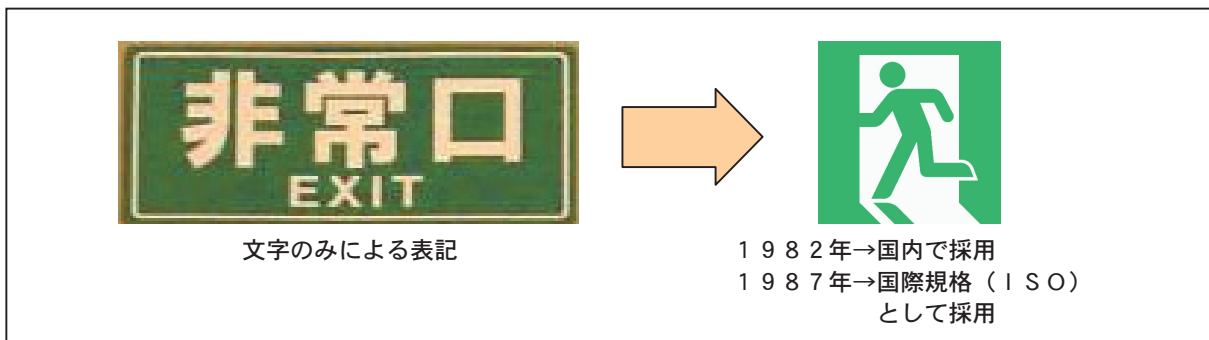
### (1) 継続的・段階的な更新と改善

- 建物の構造・設備等の老朽化や利用状況の変化等、建物を取り巻く状況はさまざまであり、一度に建物サイン全体を更新・改善することが困難な場合もあります。
- また、改善後も、将来、条例や要綱・基準等の改正、規格の統一等により、建物サインによりよい機能や性能、わかりやすい利用方法等が求められる場合もあります。
- 建物利用者や建物管理者等はチェックリストを積極的に活用し、長期的な視点から継続的・段階的に建物サインの更新と改善に取り組むことが必要です。

#### ■建物サインの継続的・段階的な更新と改善のサイクル



#### ■建物サイン改正経緯（例：避難口誘導灯）



### (2) 「ずっと住みたいやさしいまち」の実現を目指して

- 本マニュアルによって、より多くの建物管理者等、建物利用者が、よりよい建物サインづくりの重要性を再認識することを期待しています。
- また、建物サインづくりは、高齢者・障害者・子育て中の方々など、さまざまな建物利用者の多様なニーズに配慮した建物運用や管理、サービスのあり方を見直すきっかけにもなります。
- 建物サインづくりを通じて培われたユニバーサルデザインの視点が、より幅広い練馬区の福祉のまちづくり施策へ反映され、ずっと住みたいやさしいまちの実現に向けて区民・区・事業者等の協働による取り組みがさらに展開されることが望まれます。